

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175400340		
法人名	医療法人交雄会		
事業所名	グループホームしらかば		
所在地	北海道遠軽町生田原350番地 生田原診療所 2階		
自己評価作成日	2013年8月26日	評価結果市町村受理日	平成25年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0175400340
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

やまべの棲む生田原川が眼下に流れており、河川敷には“カーン”とパークゴルフの音が鳴り響き、遊歩道は朝晩のワンちゃん散歩で大賑わい。そんな緑豊かな自然に囲まれた生田原に開設して間もなく満10年です。職員も御利用者様も入れ替わりが少なく長いお付き合いさせていただいており、御家族様とも馴染みの関係ができていからか毎日変わらない日常生活が保ちやすく、感謝の日々です。一人一人の時間を大切にしたい介護をさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は併設型の2階部分で1階が診療所になっており、緊急時や健康管理面での安心が得られています。開設時からの利用者が多く、又、職員の離職も少なく利用者、家族とは良好な関係が維持されています。今年、事業所内で看取りケアが実施され、職員は得た経験を活かし看取り介護の意識を高めると共に様々な場面でのチームケア実施に繋げています。職員は研修を通じて理念への思いを振り返り、再確認の中で介護理念「楽しくて、安心で、何でも皆と一緒に、助け合いながら暮らす、優しい時間を大切にします」をケアの基本としています。利用者にとって一番良い過ごし方、自分らしい生活が送れるような介護を目指しています。職員は常に笑顔を保つよう心がけています。ホーム長は職員育成として法人施設内研修や外部研修への参加を充実させ、年1回の職員個人面談や資格取得に向けてアドバイスをを行うなどモチベーション向上に役立っています。事業所内は清潔に保たれ、利用者が多くの時間を過ごすホールは憩いの場となっており、職員と利用者の話し声や明るい笑い声があふれ穏やかな雰囲気になっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員はそれぞれに理念を理解した上で個人個人工夫した介護を実践している（今年度認知症介護実践者リーダー研修に参加した職員が理念を題材に自己研修し、その際に各職員の理念に対する思いを実際に確認している）	施設理念、介護理念、職員心得を、居間、事務所等の目のつきやすい所に掲示し、確認と共有に努め、理念に込められた思いをケアの基本として実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の住民さんには施設前の苺畑などの手入れ等の協力や、畑の作物の育て方の指導をいただいたりしている。又、地域運営推進会議では町内会長さんや民生委員さんの出席をいただいている。	利用者の高齢化に伴い行事参加は難しくなっていますが、お向かいさんが草取りや畑の世話をしてくれたり、診療所やパークゴルフに来る地域の方との触れ合いなど、日常の付き合いを大切にしています。しらかば便りを支所、駅、図書館、美容室等に掲示し、事業所の透明性を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月施設たよりを地域の数か所に貼りだして施設内の様子を知らせたり認知症に対しての広報をしたり、御家族が認知症で大変な思いをしている様な地域の方との御近所付き合いもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回施設内の状況や出来事等は報告し、感想を伺ったり助言をいただいたりしている。	運営推進会議は2ヶ月に一度開催され、事業所の活動状況、入居者の様子、年間予定、避難訓練等について報告し、話し合いを行い運営に活かしています。又、地域高齢者の情報交換が行われています。議事録は全家族に郵送し、情報共有に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場支所には施設たよりを配布して職員や町民に施設の活動などをお知らせしている。	支所とは運営推進会議等で相談、情報交換に努めると共に、社会福祉協議会主催の地域ケア会議に出席し、高齢者福祉向上に貢献しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠している。	職員は自己評価やあらゆる場面を通じてその都度話し合いの機会を持ち、身体拘束への理解を深め全職員で共有しています。管理者、職員は常に利用者の状況に注意を払い、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	報道や研修等で虐待が取り上げられる度に会議などで話し合う様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設には成年後継制度を利用している方が2名おり、職員は制度の大まかな事は理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や説明等は主にホーム長が、ご家族に分かる様に丁寧に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・利用者アンケートをそれぞれに行い、その結果を大切に職員間で話し合っている。	運営推進会議や家族の来訪時に意向などの収集に努めています。又、利用者・家族アンケートを法人が直接実施し、意見、要望を表出できる機会を設け、そこでの意見を運営に反映させています。毎月しらかば便りで利用者の様子や生活の様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で話し合うほかに、毎年個人面談をし、スタッフ個人個人の考えや思いを聞く機会を設けている。	ホーム長は職員会議や個人面談で職員の意見や提案を受け止めています。又、朝・晩の申し送りを活用して情報の共有に努めています。職員の離職は少なく、職員間は良好な関係を構築させ、働きやすい職場になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はホームの状況や個別評価を代表者に伝え、適切な評価や待遇の向上などからモチベーションアップを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの経験や能力に合った研修に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	先日の認知症介護実践者リーダー研修では他施設実習があり、自施設と他施設の違いを分かる事が出来、大いに勉強になったと研修参加者の報告があった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には出来るだけ自宅や入院先に訪問して、言葉からは聞かれない事をも感じる事が出来るように面接を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に先ず御家族や担当ケアマネから確認している事であり、申し込み後の面接でも御家族のお話には心を寄せるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先ずは利用者御本人と御家族が「安心できる」状況作りから始め、安心が継続できる様な支援につなげるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること出来ない事、したい事したくない事を見極め、精神状態・身体状態に応じた関わりをするようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診に一緒に行ったり、行事の時に一緒に楽しむように誘ったりしている。又普段の生活ぶりを嬉しい事を中心にお伝えしたりと、家族が本人を大切だと思えるように、伝え方の工夫等をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方の入所では特に関係を継続できる様な場面が多くなるので、知り合いとの関係の継続や住み慣れた町で慣れ親しんだ空気を吸いながらの散歩等で馴染みや安心を継続できるように心掛けている。。	馴染みの美容室や行きつけの店での買い物、図書館、お地藏さん参りに出掛けたり、自宅を訪問するなど利用者のこれまでの関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知状態・年齢・体力・健康状態がそれぞれに違うが、居間に皆が集まってテレビを見たり体操したりレクリエーション等を楽しんだりと、交流を毎日している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去以後も訪問していただく御家族がいたり、入院している場合には元利用者のお見舞いなどにも行き、多くの利用者御家族との関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症状の進行や加齢・体調により日々変わってくる暮らし方を観察して記録し伝え、出来るだけ安全に、その人らしく暮らせるように心掛けている。	センター方式の活用や日々の関わりを通して思いを汲み取り、その人らしい暮らし方や好みを優先に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居すぐにセンター方式を使用して生活の基本情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録は出来るだけ分かりやすく、様子が浮かぶような書き方を心がけ、朝夕と一日2回の申し送りで全職員がわかる様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月の会議で行い、それを元にして担当者がケアプランを考え、更に御家族・ケアマネと相談しながらケアマネが作り上げていっている。	介護計画は担当職員が日々の関わりの中から得られた情報を基に立案し、家族の意向を取り入れケアマネージャーが作成しています。3ヶ月毎の見直しと現状に応じ適宜見直しを行っています。個人記録に毎日必要なプランを記載し、連動した分かり易い記録を心がけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は誰にでも分かりやすい記録を目指している。専門用語は使わずに、御家族にもわかりやすい、その時の様子がよくわかる様な書き方をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小さい施設である事を生かす様に、臨機応変な考え方・対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物が出来る方は職員と食材の買い物、読書好きの方は図書館通い、信心深い方は地蔵参り等で地域資源を豊かな生活の為に活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1階にある診療所がかかりつけ医であったり、若い頃からかかっている医療機関に継続してかかっていたりと、個々の状態や希望に沿った支援をしている。	1階の診療所の他、近隣町村にかかりつけ医があり受診は家族対応ですが、状況により事業所でも支援しています。週に一回以上保健師の資格を持つ看護師の職員により健康管理が行われ安心な体制構築がされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回勤務に来ている看護師とそれぞれの職員が、毎日の記録や申し送りを元にして報告・連絡・相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は頻繁に病室を訪れたり、担当看護師や担当医と話が出来る機会をもち、長期入院による認知・身体状況の悪化を防ぐように心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に終末期についてのその時点での意志は確認することになっているが、状態の変化と共に、その都度話し合いを重ねていくことにしている。	終末期のあり方について取り組む方向での指針があり、利用契約時に利用者家族には説明をしています。時期が来た時には関係者を交え再度話し合いを重ね利用者家族の同意書を得て、看取りケアに取り組んでいます。看護師により職員研修を適宜行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急訓練は欠かさず行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、地域と共に避難・消火訓練等を行っている。	避難訓練は消防署の指導のもと、地域住民の協力を得て行われています。更に職員の身につくように複数回避難訓練を行っています。火災以外に地震、水害、断水、停電対策はマニュアルを作り対応し、備蓄品等は系列の高齢者福祉施設と連携を取り備えています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄に関してはプライバシーを守る様に表現方法を工夫し、個人の生活情報を申し送る朝晩は居室の番号で申し送って個人名は使わない様になっている。	利用者一人ひとりの尊厳を傷つけないように配慮しています。特に、排泄時には羞恥心の起きないように声掛けを行っています。ファイル等は個人名が見えないように工夫されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の思いこみや都合で利用者様の一日が決まらない様に、言葉や行動・表情からも、本人が望んでいる事を支援するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	起床や就寝・食事の時間等、年齢や体調に合った時間の過ごし方が出来るように個別対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は御家族が本人の好みのものを用意しており、それを職員と本人と相談しながら季節や天候に合わせて着用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しめるものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員同じくとはいかないが、出来ることを、出来る方が、職員と一緒にしている。	献立、調理は職員が行い利用者の好みを取り入れながら、状態に合わせて支援しています。又、家族から好みの料理の差し入れが有り全員が楽しめる食事となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な血液検査や毎月の体重測定等で体調を管理し、状態に応じた食事形態や量・食事時間を工夫し、記録して次々につなげていっている。又、毎日の食事摂取や水分摂取量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後やオヤツの後などにうがいや歯磨きをしていただいている。ただ、時間がそれぞれに違うので、個人に合った支援の仕方の工夫をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元に個別のタイミングや適した排泄補助用品を工夫している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を付けパターンを把握して時間誘導を行ったり、居室のポータブルトイレを使用し、自立に向けた取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は健康のバロメーター。便の状態や量など細かく全職員が申し送りで確認し、毎朝のヨーグルトや牛乳・ブルーベリー等の摂取や運動レクなどで排便を促すような工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日誰でも入浴できる様な体制になっているが入浴を好まない方が多いので、トイレに立った時に入浴に誘ったり、誘った時に気乗りしない様な時には少し時間をおいてから声をかける等の工夫をしている。	入浴記録をとり、最低でも週2回以上の入浴支援を行っています。中にはほぼ毎日の利用者や、希望があれば工夫をして夜間入浴も可能となっています。拒否の利用者には、さりげなく誘うなどの工夫をし声掛けをしています。脱衣室にはタオルでくるまれた着替えが常時用意され、いつでも対応できるようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意志や習慣は大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、3段階の手順を踏んで間違いのない様にしている。又薬の内容についても、個人個人の病名や服薬名、副作用などについても分かりやすい様に掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や入居してからの御家族からのセンター方式の基本情報などを元に、一人ひとりを支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけたい気持ちを大切に、共に楽しむ様な機会を持てるように心掛けている。例えば自宅・信仰に関した事・季節の催し・趣味に関した事等。	日常的に近所への散歩を楽しんでいます。春には近隣町村へ花見へドライブに行ったり、系列高齢者施設のお祭り、更に個人でお寺に行く等の外出支援をしています。秋祭りには、神輿や獅子舞が前広場に来て利用者を楽しませてくれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在は現金を自分で使うような方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族・親戚から近況報告の便りや電話がくる方もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けなどをしている。	事業所自体が鉄筋コンクリート造りの2階にあり、廊下や居室は広く、居間も大きな窓で見晴らしがよく、明るく快適な環境となっています。利用者は居間でテレビ体操やしらかば体操をしたり、談笑をし、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士と一緒に過ごせる場所はもちろんだが、気の合わない者同士がある程度距離を保てるような気配りも大切にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの御家族が本人の使いなれた物を用意しており、その中で毎日暮らしている。	利用者が今迄使い慣れている筆筒やベッド等の家具、テレビ、冷蔵庫が配置され、壁には家族の写真や絵が飾られ居心地良く暮らせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かる様に写真を貼ったり、名前を貼ったり、特に夜間のトイレの前は他の場所よりも明るい様に照明をつけたりと、迷わない工夫をしている。		